

小さなことから始まる、平和で豊かなまちづくり

諏訪市人権平和学習のたより R 7/12/1 発行／諏訪市・諏訪市教育委員会

このたより全般に関する問い合わせは、生涯学習課まで…TEL75-5257

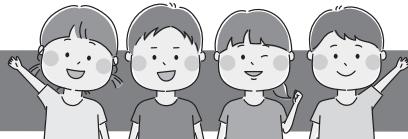
令和6年度 人権講座

「自分らしく生きる3つの処方箋」 令和7年1月25日(土)

「多様性を受け入れる」とは何か?苦手な人も受け入れなければいけないということ?などの疑問やモヤモヤに対し、「多様性を尊重し受け入れる社会」を『自分らしく生きることができる社会』と言い換え、講演会やワークショップを行いました。

講師は、元長野県副知事を務め、男女共同参画・女性活躍支援等に力を注いできた中島恵理さんと、県内でSDGs・女性活躍・子育て・起業支援などをテーマに活動している4団体が連携した「暮らすroom'sプロジェクト」でした。

3つの処方箋



- ① 既存の価値観に合わせるために無理をしない。自分が楽しめる働き方・暮らし方を考える。
- ② 周りの目を気にしそぎず自分の直感を大事に。お互いを活かす役割分担を。
- ③ 急がなくてもよい。ゆっくり自分らしい生き方を探す。

▲以上をもとに、講師の方の経験やヒントをお話いただきました。市職員も参加し、行政・市民相互が普段感じていることなどを発信しあい多様な意見に触れることができました!

令和7年度 三者共催(男のおもしろ倶楽部・男のプレミアム倶楽部・女性セミナー)一般公開講座

被爆体験の父が伝えたかったこと 令和7年6月25日(水)

戦後80年を迎えた節目に「平和の尊さ」「命」などについて問い合わせる機会として、松本市生まれの被爆2世で長野県原爆被害者の会副会長の前座明司さんにお話をいただきました。

前座さんのお父さんは広島県生れで、20代の時に被爆しています。その後松本市へ移住し、1961年に「ピカドン食堂」を開業、被爆体験など話し、広島、長崎出身の方などが訪れました。そんなお父さんの体験と、被爆2世としての思いをお話してくださいました。

●全国の被爆者 106,825人 平均年齢 85歳

●県内の被爆者(R6年3月末現在) 82人 県内でも体験を語れる方が少なくなっています。

●被爆2世の思い

子どもの頃から健康面の不安が大きく、また差別されるのが怖く、被爆者の子であることを明かしたくないとも思ってしまう。

前座さんのお父さんの言葉

「今日の聞き手は 明日の語り手」



この当たり前の平和がいつまでも続くために、私たちも聞いたことを後世へ伝えていきましょう。

「広島平和記念式典」今年も市内中学生代表が参加

市では中学生の広島派遣平和教育事業を行っています。毎年市内各中学校の2年生代表8名が平和記念式典参加のほか、平和記念資料館などを見学し、被爆者の体験をお聞きします。そして各学校において発表会を行い、多くの生徒にも、広島派遣平和教育事業を通じて学ぶことのできた平和の尊さが伝えられます。



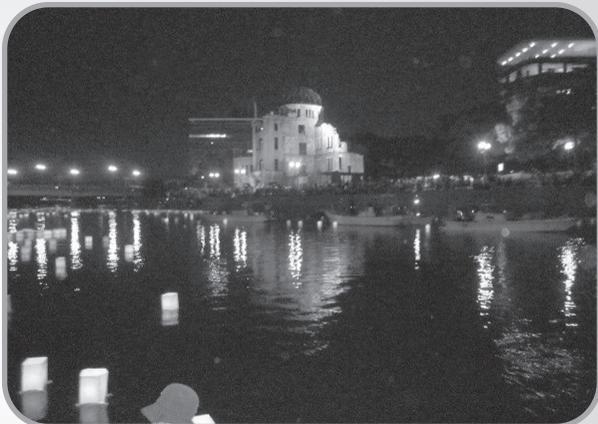
原爆の子の像の前で(令和7年度)



子どもサミットでの被爆体験講話(令和7年度)



碑巡りの様子(令和6年度)



灯籠を流す(令和6年度)



資料館の様子(令和7年度)



集合写真(上：令和7年度 / 下：令和6年度)



～令和6年度と令和7年度の参加生徒による感想（抜粋）～

令和6年度参加生徒



令和7年度参加生徒

【被爆者のお話】・原爆は昔話ではない（中略）放射線をあびて治療を続けている人やあびていない人は自分がこれから治療をしてもらわなければいけないと怯えている人が今でもいるといっていました。（中略）こんなことが二度と起きないように、もっと考えを深めて、知ったことなどを多くの人に伝えバトンパスをしていきたいと思います。

【広島平和記念式典】・式典で歌われる「折り鶴」や「ひろしま平和の歌」は（中略）戦争の悲惨さや人々の悲しさ、苦しみが伝わってくるような重みがあった。同時に、聞いている人の気持ちを穏やかにするような優しさや、戦争に対する反省を伝えるような強さも表現されていて、聞いていて様々な気持ちを感じることができた。

・小学生の平和への誓いの中で、「一人一人が相手の話をよく聞くこと。『違い』を『良さ』ととらえ、自分の考えを見直すこと。」と話していて、こういうことから争いが減っていくのかもしれないと思いました。

【平和記念資料館】・衣類や道具なども展示されていました。すごく心に迫るものがあり、初めて本当に胸が苦しくなる思いをしました。

【灯篭流し】・外国の方・小さな子供・お年寄りの方などたくさんの方々も参加していました。流された灯篭を見ていると「こんなにたくさんの平和への願いがあるのだ」と思い、うれしい気持ちになりました。

【袋町小学校平和資料館】・原爆投下で生き残った人が避難してきたところで、そこには壁に伝言を書いている人がいて亡くなっているのがわかっているのに現実を受けとめきれなくて伝言を書いている人もいました。（中略）突然の出来事過ぎてまだ現実を受けとめきれない人がたくさんいたと思いました。

【全体を通して】・少しの考え方の違いを認めず、どちらが正しいのかを武力によって勝敗を決めようとするから戦争が起きてしまう（中略）戦争を起こさないためにできることは「今」を生きる私たちがこの悲劇を後世に伝えていくということだと思います。
・まず、私たちが最初にできることは「知ること」だと思います。（中略）そして、自分が知ったことを「伝える」ことが大切だと思います。

（問）教育総務課学務係 TEL52-4141（内線462）

【平和記念公園碑巡り】・祈りの泉、平和記念資料館、原爆死没者慰靈碑、平和の灯、原爆ドームこれら一つ一つに平和記念公園の意味があると言ったということを僕は知りました。祈りの泉に込められた意味は（中略）「水をあげるな」と言われて水を飲めずに亡くなっていた被爆者の人々に水をお供えするため、祈りの泉が建設されたと言われています。

【広島平和記念式典】・参列してみて広島で被爆した人たちの思いや苦しさ、戦争の悲惨さや平和の尊さ、そして、私たち一人ひとりが平和な社会を築くためにお互いを尊重し違いを認め合うことが大切だと知れ、自分たち子どもが平和を創り上げていくことが分かりました。

【平和記念資料館】・どの展示品に対しても恐怖を覚えました。特に怖かったのは原爆症にかかり、死の黒い斑点が出た状態でカメラのほうを向く男性の写真です。年もそれなりに若く、悲しそうな顔をしていました。「自分はこれから死ぬのかな。」そういう想いも感じました。

・被害を受けた方の写真、実際に持っていた持ち物などを直接見ることで、原爆がどれほど恐ろしいものなのかを改めて感じました。

【灯篭流し】・実際に灯篭に平和への願いを書き、知らない人たちと一緒にになって、それぞれが願う平和への思いを灯篭に込めて流すことで、参加している人たちとひとつになった気がしました。

【全国こども平和サミット】・平和の取り組み発表では、他の県の中学生や高校生が平和について発表していました。その中に長野県岡谷市の中学校の発表もありました。（中略）「未来を作っていくのは私たち」という意識を持つことが大切だと知りました。

【全体を通して】・今自分が親や周りの友達と一緒に過ごしてるのは、当たり前にあるものではなくて広島や長崎の犠牲者の方をはじめ、多くの人々の協力があったからこそ時間であり、その時間は、たった一つの戦争ですべて奪われてしまうことを、痛感しました。

・一番被爆で命を落としたのは自分たちと同じ中学生が多く、お母さんやお父さんに会えず亡くなったのが大半でした。今生きていて何も起こらないのが一番の幸せであると知りました。

市内小中学校の取り組み

豊田小の取り組み

えがお 豊田小学校スローガン「咲顔」が広がる学校



●なかよし旬間(11月実施)

毎年11月には、「なかよし旬間」を行っています。内容は、人権校長講話・人権に関わる授業・図書館での人権関連本の紹介・「花さき山」です。このうち「花さき山」では、児童会が中心となって、友だちのいいところ・してもらってうれしかったことなどを、花の形のカードに書いて廊下に掲示します。カードには「大きな声で歌を歌っていていいね」「勉強でわからなかったところを教えてくれてありがとう」「元気な笑顔がいいね」などと書かれ、廊下ではそれを一生懸命読む姿が見られました。子どもたちは、良いところを見つけようと友達のいろんな面を見たり、自分の良い面を見つけたりすることができます。



●豊田小祭り(12月実施)

12月には、全校が交流を深め仲良くなれるように「豊田小祭り」を行っています。6年生がたくさんのゲームブースを作り、縦割り班でそのブースを回ります。子どもたちはゲームをとおして、協力したり話し合ったりして、楽しみながら仲良くなることができます。



諏訪南中の取り組み

人権旬間の取り組みについて(5月実施)

5月に前期人権旬間（後期は11月に実施予定）を行いました。旬間の初日に「人権感覚」についてあらためて考える目的で「全校人権集会」を行いました。法務省の人権啓発アニメやビデオを視聴しました。その後、各学年や学級の計画に基づいて、人権学習を進めています。

●3学年での実践

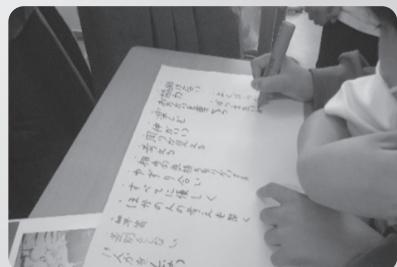
2学年時の「I have a dream（私には夢がある）」を活用して考えた人種差別や「ハンセン病問題」に引き続いで、今年は同和問題について「あけぼの」を活用して学習を進めました。「江戸時代にはどのような差別があったのか」や「どんなたたかいをしたのか」など江戸時代に差別を受けた人々の記録を通して、社会の姿や、差別に立ち向かう生き方について考えました。



全校での人権集会より

●生徒の感想より

- ・差別は「知らない」ということで始まってしまうこともあるので、本当のことを探っていきたい。
- ・差別を受けてきた人が、世の中を変えようしてくれたことで、今の世界につながっていると思うと、感謝の気持ちとともに、その勇気を見習って強い気持ちで生活していきたい。



1学年 安心安全な学校生活にむけてより

諏訪市では、昭和59年6月議会において「平和都市推進の宣言」、平成8年9月議会において「人権尊重都市宣言」を決議し、人権平和教育事業を推進してきました。平和で豊かな私たちの諏訪市をつくるため、毎日の生活の中でできる「小さなこと」を大切にしていきましょう。